

業務グループ別業績総括

当行は顧客志向型の業務体制を敷いており、対象とする顧客・マーケットごとに業務組織を編成しています。具体的には、次の業務グループを設置しています。

個人業務グループ	国内の個人・地元法人取引を担当
法人業務グループ	国内中堅・中小企業取引を担当
企業金融グループ	国内大企業取引を担当
国際業務グループ	海外支店・現地法人所管の日系・非日系企業取引を担当
市場営業グループ	内外 ALM (アセット・ライアビリティ・マネジメント)、債券ポートフォリオ業務、トレーディング業務を担当
キャピタルマーケットグループ	証券、デリバティブ、シンジケーション、ストラクチャードファイナンス、M&A等のキャピタルマーケット業務を各業務グループ横断的に担当

平成11年度の当行の業務粗利益は、前年度比278億円減益の7,225億円、業務純益(除く一般貸倒引当金繰入額)は前年度比71億円減益の3,894億円となりました。

これは、内外マーケティンググループ(個人業務・法人業務・企業金融・国際業務の合計)の収益が増益基調を維持した一方、市場営業グループの収益が大幅減益となったことによるものです。

各業務グループごとの業績の概要は次のとおりです。

個人業務グループ	短期金利の一段の低下により預金の収益性が悪化したことを主因に、前年度比減益となりましたが、合理化の一層の推進により経費削減が順調に進んだほか、粗利面でも投資信託販売関連等の手数料収入が増加しました。
法人業務グループ	信用リスクに見合ったレベルへの貸金利鞘の適正化が進んだこと、お客さまの高度なニーズにかなった質の高いソリューションを提供していく「ソリューションビジネス」に注力した結果、振込・EB関連などの手数料が増加したことから前年度比増益となりました。
企業金融グループ	法人業務グループ同様、貸金利鞘の適正化を図れたこと、およびコミットメントライン等の新規業務も好調であったことから、前年度比増益となりました。
国際業務グループ	アセットの抑制、円高等により粗利益は伸び悩みましたが、経費削減の進展により、前年度比増益となりました。
市場営業グループ	相場環境の影響などにより変動が大きい国債等債券関係損益を中心に前年度比大幅減益となりました。

平成 11 年度業務グループ別経費差引後収益

(単位：億円)

	個人業務 グループ	法人業務 グループ	企業金融 グループ	国際業務 グループ	マーケティング グループ小計	市場営業 グループ
粗利益 (前年度比)	1,523 (173)	2,136 (162)	719 (101)	534 (16)	4,912 (74)	1,897 (728)
経費 (前年度比)	1,500 (73)	879 (45)	104 (3)	306 (96)	2,789 (217)	131 (21)
経費差引後収益 (前年度比)	23 (100)	1,257 (207)	615 (104)	228 (80)	2,123 (291)	1,766 (707)

(注)キャピタルマーケットグループの収益はマーケット別業務グループとのダブルカウント収益であるため、上記グループ収益の一部として含まれています。

なお、当行では、「リスク資本コスト勘案後収益」の概念に基づくSVA (Sumitomo Value Added)による業務部門の評価を平成12年度より試行しており、(株)さくら銀行との合併後は本格的に経営管理手法として導入することを計画しています。

リスク資本コスト勘案後収益 = 当期利益 - リスク資本額 × 資本コスト率

(注)リスク資本額：その業務から発生することが想定される損失をカバーするために必要な資本の額